

整理番号 20907

300213890

共 願 先 へ 送 付 済

発送番号 425655 1/

発送日 平成15年12月24日

## 拒絶理由通知書

JAPANESE OFFICE ACTION (mailed December 24, 2003)

Issued for Japanese Patent Application No. 2000-016362

特許出願の番号

特願2000-016362

起案日

平成15年11月27日

特許庁審査官

中里 裕正

9364 5M00

特許出願人復代理人

河野 英仁 様

適用条文

第29条柱書、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

### 理 由

A. この出願の請求項に係る発明は、下記の点で特許法第29条第1項柱書に規定する要件を満たしていないので、特許を受けることができない。

#### 記

- ・請求項 1, 2, 5, 6, 7, 8, 9
- ・備考

一般に「センタ」とは一種の社会組織であり、「エンティティ」とは人間をも含む抽象概念であるから、本願の請求項1, 2, 5, 6, 7は、組織や人間を含む、社会的な存在の間で人為的な取り決めに基づいて行われる行為を請求したものであり、これは自然法則を利用した技術的思想ではないから、特許法第2条に定義された発明ではない。

請求項8, 9には「エンティティ」が各手段を備えた「暗号通信システム」が記載されているが、上記したように「エンティティ」とは社会的な存在であるから、これらの請求項は、組織や人間が道具としての機器を用いて通信を行う態様を社会システムすなわち社会的な制度として記載したものであると認められ、これは同様に自然法則を利用した技術的思想ではないから、特許法第2条に定義された発明ではない。

B. この出願は、明細書の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

#### 記

(a) 請求項3には「センタから各エンティティへ、…送付し」と記載されているが、この記載が以後の記載の何れの部分と関係するのか不明である。

(b) 請求項10には「プログラムコード手段」を含む「プログラム」を記録した「記録媒体」になるものを有することが記載されているが、一般に「手段」とはハードウェア資源にて実現されるものであるのに対して、「プログラムコード」とは記号列であるから、「プログラムコード手段」とは如何なるものか不明であり、そのようなものを含む「プログラム」及びそれを記録した「記録媒体」とは如何なるものか不明である。

-----  
先行技術文献調査結果の記録

- ・ 調査した技術分野      I P C 第 7 版    H04L9/00, G09C1/00, G06F13/00
- ・ 先行技術文献            特開平 1 1 - 2 2 0 6 0 0 号公報

この先行技術文献調査の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

(11)Publication number : 11-220600  
(43)Date of publication of application : 10.08.1999

H04N 1/32  
G06F 13/00  
H04N 1/00

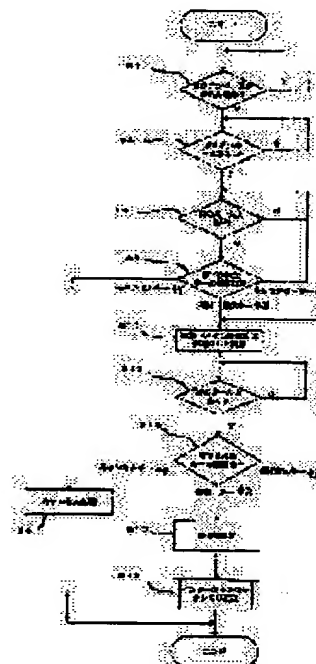
(71)Applicant : BROTHER IND LTD

(72)Inventor : MATSUSHITA SATOSHI

**(57)Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an internet facsimile equipment in which number of address entry mistakes is decreased.

**SOLUTION:** When user identification information or the like is received (S1: YES) and a one character at the head of a domain name is entered (S3: YES), the processing proceeds as follows. When a key is depressed (S3: YES) and the key is an object display key 42 (S7), the objects of domain names whose head character is the single-character above are displayed (that is, remaining characters of the domain names are supplemented) (S11). When a key is depressed (S13: YES) and the key is a confirmation key 43 (S157), the object is selected as the domain name of the destination and the destination address is confirmed with the object and the user identification number (S17), and internet facsimile transmission is executed to the address (S19). Thus, it is not required to enter one by one character for the domain name.



[Date of request for examination] 28.09.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 11.06.2002

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-220600

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月10日

(51) IntCl.<sup>6</sup>

H 0 4 N 1/32

識別記号

F I

H 0 4 N 1/32

L

F

Z

G 0 6 F 13/00

3 5 1

G 0 6 F 13/00

3 5 1 G

H 0 4 N 1/00

1 0 7

H 0 4 N 1/00

1 0 7 A

審査請求 有 請求項の数 4 F D (全 14 頁)

(21) 出願番号

特開平10-33945

(22) 出願日

平成10年(1998) 1月29日

(71) 出願人 000005267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

(72) 発明者 松下 聡

名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー

工業株式会社内

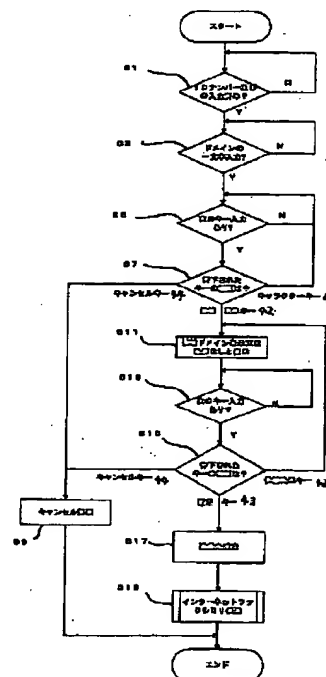
(74) 代理人 弁理士 森 泰比古

(54) 【発明の名称】 インターネットファクシミリ装置

(57) 【要約】

【課題】 アドレスの入力間違いを削減できるインターネットファクシミリ装置を提供する。

【解決手段】 ユーザ識別情報等が入力され (S1: YES)、更にドメイン名の先頭の文字が入力されたら (S3: YES)、例えば、次のように処理が進行する。キーの押下があり (S3: YES)、それが候補表示キー42であれば (S7)、上記文字を先頭に有数するドメイン名の候補を表示し (つまり、ドメイン名の残りの文字を補完する。S11)、次いで、キーの押下があり (S13: YES)、それが確定キー43ならば (S15)、その候補を送信先のドメイン名として選択し、それと、前記ユーザ識別番号とから送信先アドレスを確定し (S17)、そこにインターネットファクシミリ伝送を実施する (S19)。このようにドメイン名を一字一字入力する必要がない。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 インターネットを介して送信先にファクシミリ伝送を実施可能なインターネットファクシミリ装置であって、

送信先のアドレスのユーザ識別情報を入力可能な識別情報入力手段と、

送信先のアドレスのドメイン名の候補を絞るために、特定の情報を入力又は選択する特定情報入力／選択手段と、

ドメイン名が多数記憶してあるドメイン記憶手段と、前記特定情報入力／選択手段によって入力又は選択された前記特定の情報と、前記ドメイン記憶手段に記憶されているドメイン名とを関連させて、送信先のアドレスのドメイン名の候補を挙げる候補提示手段と、

前記候補提示手段によって候補が1つのみ提示された場合には、その候補に確定し、また候補が2以上提示された場合には、その中から1つの候補を選択し且つその選択された候補に確定する提示候補確定手段と、前記識別情報入力手段と前記提示候補確定手段とによって確定されたアドレスに従って、インターネット送信の実行を指令する送信指令手段とを備えることを特徴とするインターネットファクシミリ装置。

【請求項2】 前記識別情報入力手段は、文字や数字を1文字ずつ入力可能な文字／数字入力手段であり、前記特定情報入力／選択手段は、前記文字／数字入力手段が兼用し、入力又は選択される前記特定の情報とは、前記ドメイン名の所定位置における1以上の文字若しくは数字であり、

前記候補提示手段は、前記所定位置に相当する位置に前記特定情報入力／選択手段により入力又は選択された前記文字若しくは数字と同一文字若しくは数字が存在するドメイン名の候補を提示するものであることを特徴とする請求項1記載のインターネットファクシミリ装置。

【請求項3】 前記特定情報入力／選択手段は、前記ドメイン名の1以上の属性を選択するものであり、前記候補提示手段は、前記属性に適合する候補を提示するものであることを特徴とする請求項1記載のインターネットファクシミリ装置。

【請求項4】 送信先のアドレス全体、アドレスの個人識別情報、及びアドレスのドメイン名の少なくともいずれかの候補を、利用者が登録するための登録キー及び登録キーにより登録された候補を記憶する登録用記憶手段と、

前記登録用記憶手段に登録した候補から、任意の候補を呼び出す呼出手段と、

前記呼出手段で呼び出した候補の中で所望のものがあれば、それを選択し、且つその選択した候補に確定できる呼出候補確定手段を更に有し、

前記送信指令手段は、前記呼出候補確定手段によって確定された候補からなるアドレス又は該候補を含むアドレ

スに対しても、送信実行を指令し得るものであることを特徴とする請求項1～3いずれか記載のインターネットファクシミリ装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、インターネットを介して送信先にファクシミリ伝送を実施可能なインターネットファクシミリ装置に関するものである。

## 【0002】

10 【従来の技術】インターネットによる電子メール伝送の場合には、送信された情報と同一情報が、送信元のパーソナルコンピュータ等のメモリに通常残される。一方、インターネットファクシミリ装置では、送信すべき情報が画像情報であり、一般に情報量が多いため、その情報がインターネット上の中継ドメイン（商用プロバイダ等）一旦送られれば、実際にその情報が送信先に届くか否かに関係なく、通常、当該情報はインターネットファクシミリ装置には記憶・保存されていない。従って、インターネットファクシミリ装置では、間違った送信先を指定して送信操作を実行してしまった場合、その後、正規の送信先へのインターネットファクシミリ伝送を完

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、この種の装置では、アドレスはユーザ識別情報及びドメイン名を一文字一文字入力していたので、手間がかかり、また、間違いを起こしやすかった。

【0004】本発明は、上記の課題を解決するためになされたものであり、アドレスの入力間違いを削減できるインターネットファクシミリ装置を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、請求項1記載の発明は、インターネットを介して送信先にファクシミリ伝送を実施可能なインターネットファクシミリ装置であって、送信先のアドレスのユーザ識別情報を入力可能な識別情報入力手段と、送信先のアドレスのドメイン名の候補を絞るために、特定の情報を入力又は選択する特定情報入力／選択手段と、ドメイン名が多数記憶してあるドメイン記憶手段と、前記特定情報入力／選択手段によって入力又は選択された前記特定の情報と、前記ドメイン記憶手段に記憶されているドメイン名とを関連させて、送信先のアドレスのドメイン名の候補を挙げる候補提示手段と、前記候補提示手段によって候補が1つのみ提示された場合には、その候補に確定し、また候補が2以上提示された場合には、その中から

1つの候補を選択し且つその選択された候補に確定できる提示候補確定手段と、前記識別情報入力手段と前記提示候補確定手段とによって確定されたアドレスに従って、インターネット送信の実行を指令する送信指令手段とを備えるものである。

【0006】上記インターネットファクシミリ装置は、次の点を利用したものである。つまり、送信先アドレスの既存ドメイン名は、送信先アドレスの既存個人識別情報（IDナンバーなど）に比較して、数的にかなり限定される。故に、既存ドメイン名を、その各々が関連する特定の情報に対応させて、装置側において、予め記憶しておくことができ、その中から所望のドメイン名を、利用者に簡単な操作で呼び出させるようにしたものである。

【0007】具体的には、まず、送信先のアドレスのドメイン名の候補を絞るために、そのドメインに関連する特定情報を、特定情報入力／選択手段で入力又は選択する。それによって、ドメイン名が多数記憶してあるドメイン記憶手段から、その特定情報と関連性の強いドメイン名の候補が候補提示手段によって挙げられる。その候補から、所望の候補を提示候補確定手段によって確定し、その確定されたドメイン名と、識別情報入力手段によって、例えば文字や数字が入力されたユーザ識別情報とからなるアドレスに向けて、送信指令手段により、インターネット送信の実行が指令される。

【0008】請求項2記載の発明のインターネットファクシミリ装置は、前記識別情報入力手段は、文字や数字を1文字ずつ入力可能な文字／数字入力手段であり、前記特定情報入力／選択手段は、前記文字／数字入力手段が兼用し、前記特定情報入力／選択手段により入力又は選択される前記特定の情報は、前記ドメイン名の所定位置における1以上の文字若しくは数字であり、前記候補提示手段は、前記所定位置に相当する位置に入力又は選択された前記文字若しくは数字と同一文字若しくは数字が存在するドメイン名の候補を提示するものであることを特徴とする。

【0009】この装置では、文字／数字入力手段によって送信先のユーザ識別情報が入力でき、更に、その手段によって送信先のドメイン名のいずれか1以上の文字若しくは数字も入力できる。そのようにドメイン名の1以上の文字若しくは数字（これがドメイン名に関連する特定情報である）が入力されると、候補提示手段によって、その文字若しくは数字と同一文字若しくは数字が対応位置に存在するドメイン名の候補、つまり、残りの文字若しくは数字を補完したドメイン名の候補を提示する。利用者が、それら候補の中から、所望のドメイン名を選択・確定すれば、入力されたユーザ識別情報とドメイン名とからなる送信先アドレスへ向けて、インターネットファクシミリ伝送が実施できる。

【0010】請求項3記載の発明のインターネットファ

クシミリ装置では、前記特定情報入力／選択手段は、前記ドメイン名の1以上の属性を選択するものであり、前記候補提示手段は、前記属性に適合する候補を提示するものであることを特徴とする。

【0011】この装置では、上記特定情報としてのドメインの属性、具体的には、国内ドメインか国外ドメインかのような属性を選択することによって、ドメインの候補を絞って行くことができ、その候補の中から、送信先アドレスのドメイン名を選択・確定することができる。

【0012】請求項4の発明のインターネットファクシミリ装置は、送信先のアドレス全体、アドレスの個人識別情報、及びアドレスのドメイン名の少なくともいずれかの候補を、利用者が登録するための登録キー及び登録キーにより登録された候補を記憶する登録用記憶手段と、前記登録用記憶手段に登録した候補から、任意の候補を呼び出す呼出手段と、前記呼出手段で呼び出した候補の中で所望のものがあれば、それを選択し、且つその選択した候補に確定する呼出候補確定手段を更に有し、前記送信指令手段は、前記呼出候補確定手段によって確定された候補からなるアドレス又は該候補を含むアドレスに対しても、送信実行を指令し得るものである。

【0013】この装置では、利用者がよく利用するアドレスや、アドレスの一部（例えば、アドレスのドメイン名）を、その登録用記憶手段に、前記ドメイン記憶手段とは別に、登録しておくことができる。その登録用記憶手段から、利用者は、所望のものを、呼び出し且つ確定すれば、その所望アドレスへ向けて、又はその所望のドメイン名等を含むアドレスへ向けて、インターネットファクシミリ伝送が実施できる。この場合、登録するという手間はかかるが、例えば、所望のドメイン名を探す場合、それを、既存の全候補から探し出すのではなく、かなり狭い範囲から探し出すことができるので、所望のドメイン名を早く確定することができる。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、図面を参照しつつ詳細に説明する。図1は、本発明の一実施の形態に係るインターネットファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図である。

【0015】図示するように、このインターネットファクシミリ装置10は、画像（文字や数字を含む意である）を読み込むスキャナ12、画像を印刷するプリンタ14、スキャナ12で読み込んだ送信すべき画像情報を圧縮したり受信した画像情報を伸長する情報圧縮／伸長部16、本装置の制御プログラム及びその実行時に必要な各種の情報を記憶しているシステムメモリ18、上記情報圧縮／伸長部で圧縮された画像情報を蓄積するための画像メモリ20、国内及び国外のインターネット上の多数のサーバのドメイン名を示す文字群を、そのドメインの属性や、ドメイン名の1部の文字のような特定情報と関連付けて、記憶してあるドメイン名格納メモリ22

(ユーザによって、ドメイン名を、特定情報と関連づけて追加記憶させることも可能である)、更に、通信結果の情報や宛先情報等、本装置10固有の情報を記憶しておくためのパラメータメモリ24、パーソナルコンピュータとの情報交換を可能とするパーソナルコンピュータインターフェイス部26、ディスプレイ31や、テンキー32、その他のキー33など備えるパネル部30、インターネットファクシミリ伝送処理を直接制御し実行する通信機能部50とが、これらに接続されているCPU60によって統制制御されている。

【0016】パネル部30のディスプレイ31には、各種の情報が表示され、また、各種キーボード状の表示もなされ、その表示部への指などのタッチによって、タッチされた部分に対応した入力も可能となる。例えば、キャラクターキー41や、選択すべき範囲から各種の候補を表示させたり、別の候補を挙げさせるための候補表示キー42、更に、挙げられた候補から特定の候補を選択・確定する確定キー43、実行した処理をキャンセルするためのキャンセルキー45等が模式的にディスプレイ31に適宜表示され、それらに対応した入力が可能となっている。

【0017】上記通信機能部50は、具体的には、回線制御を行う回線制御部51、信号の変調及び復調を行うモデム52、当該回線制御部51及びモデム52を介する通信を制御する通信制御部53、LANとの間の通信を制御するネットワーク制御部54、及び、画像情報のヘッダとしてメールを付加する処理等を制御するメール制御部55からなる公知の機構である。

【0018】図2は、図1に示したインターネットファクシミリ装置と、それに接続されている通信網とを、概略的に示したブロック図である。

【0019】この図に示すように、本装置10のインターネットファクシミリ通信機能部50は、ネットワーク制御部54から、LAN70に接続され、また、回線制御部51から、公衆回線72、商用ドメイン(プロバイダ)74、インターネット76、送信先ドメイン78とを介して、送信先ファクシミリ80へと接続されている。

【0020】上記の装置を利用した送信処理を、図3に示すフローチャートを参照しつつ説明する。CPU60は、テンキー32やキャラクターキー41によって、送信先のユーザ識別情報としてのIDナンバー、更にその直後に続くアット・マークが入力されたか判断する(S1。「S」は、ステップを意味する。以下、同様)。なお、送信に必要な他の情報は既に入力されているものと

する。  
【0021】上記IDナンバー等が未だ入力されていない場合には、それらが入力されるまで待機する(S1:NO)。IDナンバーとアットマークが入力された場合には(S1:YES)、送信先のドメイン名の先頭の一

文字若しくは数字(以下、文字若しくは数字をまとめて単に「文字」と記す)がキャラクターキー41によって入力されたか否か判断する(S3)。

【0022】その一文字が未だ入力されていない場合には、それが入力されるまで待機する(S3:NO)。その一文字が入力されたならば(S3:YES)、次のキー入力があるまで待機し(S5:NO)、その入力があったならば(S5:YES)、次に、次の3種のキー、つまり、

- 1) ドメイン名の候補をディスプレイ部31に表示させるための候補表示キー42、
- 2) いずれかの文字を入力するためのキャラクターキー41、
- 3) ドメイン名の先頭文字を誤って入力した場合などに、今までの処理をキャンセルさせるためのキャンセルキー44のいずれのキーが押下されたか判断する(S7)。

【0023】S7で、キャンセルキー44が押下された場合には、今までの処理をキャンセルして(S9)、本処理を一旦終了する。S7で、任意のキャラクターキー41が押下された場合には、再び、上記S5の処理に移行する。

【0024】S5で、候補表示キー42が押下された場合には、ドメイン名格納メモリ22に記憶してある多数のドメイン名から、現在までにキャラクターキー41で押下されたキャラクタ(例えば、「a」の一文字、「ab」の二文字)と同じ文字を先頭に有するドメイン名を表示するか、候補がない場合には、候補なしと表示する(S11)。なお、ディスプレイ部31に一度に候補を表示しきれない場合には、所定のキー操作によりスクロールしたり、ページ切り換えをしたりして、順次表示せよ。

【0025】次に、再度キー入力があるまで待機し(S13:NO)、その入力があったならば(S13:YES)、次の3種のキー、つまり、候補表示キー42、確定キー43、キャンセルキー44のいずれが押下されたか判断し(S15)、候補表示キー42が押下された場合には、現在までにキャラクターキー41で押下されたキャラクタと同じ文字を先頭に有する別のドメイン名の候補を表示するか、他の候補なしと表示させる(S11)。

【0026】S15にて、ディスプレイ31に表示された幾つかのドメイン名のうち、所望のドメイン名を選択・確定する確定キー43が押下された場合には、そのドメイン名が送信先のドメイン名と判断して、既に特定されているIDナンバーと上記で選択したドメイン名とから、送信先アドレスを確定して(S17)、送信先ファクシミリ80へ向けてのインターネットファクシミリ送信処理を実行する(S19)。S19の送信処理では、具体的には、スキャナ12での送信情報の読み取り、情

報圧縮／伸長部16での読み取り情報の圧縮、その情報をインターネット76上に伝送するための形式変換や、その情報への、送信先等の必要情報の付加過程を経て、モデム52及び回線制御部51により、商用ドメイン74を経てインターネット76上の送信先ドメイン78を介し送信先ファクシミリ80へ向けてインターネットファクシミリ伝送が実施される。

【0027】ドメイン名候補中に該当するドメイン名がない場合など、S15にてキャンセルキー44が押下されたと判断した場合には、キャンセル処理を実施して(S9)、本処理を終了する。この場合には、ドメイン名も、一文字一文字入力することによって、アドレスを入力することができる。

【0028】以上の実施の形態によれば、送信先アドレスのドメイン名の先頭の幾つかの文字を入力すれば、その文字を含むドメイン名の候補が表示され、その中から所望の候補を選択することができる。要するに、ドメイン名の先頭の例えば1、2文字を入力すれば、ドメイン名の残りの文字を補完することができる。従って、アドレスの入力間違いの防止が可能である。勿論、ドメイン名の先頭の3、4文字まで入力した後、その後のドメイン名の文字を補完できるようにしても良いし、ドメイン名の先頭でない適当な位置での文字を入力して、その他の文字を補完するようにしてもよい。

【0029】別の実施の形態を図4～図6のフローチャートを参照して説明する。CPU60は、テンキー32やキャラクタキー41によって、送信先のIDナンバー、更にその直後に続くアット・マークが入力されたか判断する(図4に示すS31)。上記IDナンバー等が未だ入力されていない場合には、それらが入力されるまで待機する(S31:NO)。IDナンバーとアットマークとが入力された場合には(S31:YES)、その後、ディスプレイ31に、「ドメインが国内ならば国内という表示を、外国ならば国外という表示を押下する」と共に、「国内」及び「国外」という表示をさせる(S33)。

【0030】次に、押下された文字によって、ドメインが国内か、外国か判断する(S35)、国内であるならば、下記に具体的に説明する国内ドメイン向け特定処理を実行し(S37)、それが国外であるならば下記国外ドメイン向け処理を実行する(S39)。

【0031】S37の国内ドメイン特定処理とは、図5に示すように、具体的には、以下の通りである。まず、「ドメインは会社のような営利団体ならば営利団体という文字を、商用ドメイン(プロバイダ)ならばプロバイダという文字を、その他であればその他という文字を、押下する」という表示とともに、「営利団体」、「プロバイダ」、「その他」という文字をディスプレイ31に表示させる(S41)。

【0032】次に、どの文字が押下されたかによって、

選択されたドメインの種類を判断し(S43)、それに応じて、ドメイン名の候補を絞り込み、例えば、その選択が「営利団体」であるならば、下記で具体的に説明する営利団体ドメイン向け処理を実行する(S45)。

【0033】営利団体ドメイン向け処理とは、図6に示すように、まず、ディスプレイ31に、「ドメイン名の先頭文字を入力せよ」との表示をさせる(S51)。次いで、ドメインの属性(本例では、「国内の営利団体ドメイン」という属性)と、入力されたドメインの先頭文字とから、ドメイン候補の幾つかを、又は「候補なしという表示」を、ディスプレイ31に表示させる(S53)。

【0034】次いで押下されたキーの種類が、キャンセルキー44か、確定キー43か、候補表示キー42かを判断する(S55)。その種類がキャンセルキー44と判断したならば、今までの処理をキャンセルして(S57)、本処理を一旦終了する。S55で、押下されたのが候補表示キー42と判断したならば、再びS53に戻って、他のドメイン名候補を表示するか、「候補なし」と表示する処理を実施する。

【0035】S55において、押下されたキーの種類が、確定キー43と判断した場合には、既に特定されているIDナンバーと上記で確定したドメイン名とから、送信先アドレスを確定して(S61)、送信先へ向けての既述したS19(図3参照)と同様な送信処理を実行する(S63)。

【0036】また、図5に示した、S43にて選択されたドメインが、プロバイダ又はその他の場合にも、その後は、前述したS45の営利団体ドメイン向け処理に対応するプロバイダ向け処理(S47)、又はその他ドメイン向け処理(S49)をそれぞれ実行する。更に、図4に示したS39の国外ドメイン向け処理は、詳述した上記S37の国内ドメイン向け処理と対応する処理である(従って、その詳細の説明は省略する)。

【0037】この実施の形態では、ドメインの属性をも加味して、ドメイン名の候補を絞り込むことができる。従って、所望の最終ドメイン名に、より確実かつ迅速に到達し得る。

【0038】上記2つの実施の形態のように、ドメイン名を構成する1以上文字を入力した後、他の文字を補完する処理を利用するのではなく、ドメイン名の複数の属性を、順々に選択していくことのみで、ドメイン名を絞っていても良い。

【0039】更に、利用者がよく利用するドメイン名は、ドメイン名格納メモリ22とは別に、パラメータメモリ24の特定領域に、ディスプレイ31上に表示されるキーと指示とに従って利用者が記憶可能にしても良い。この場合、同じくディスプレイ31上に表示される呼出指示によって、優先的にそれらと呼び出しディスプレイ31に表示させ、それらの中から、所望のドメイン



名の表示にタッチして、そのドメイン名を選択・確定するようにしてもよい。こうすれば、よく利用するドメイン名が簡単に探し出すことができ、誤りの頻度が大幅に減少する。また、ドメイン名だけでなく、アドレス全体や、アドレスの個人識別情報のみをも登録できるようにしても良い。

#### 【0040】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、請求項1の発明のインターネットファクシミリ装置によれば、予め記憶してある多数のドメイン名の中から、所望のドメインを、それが関連する特定情報を参考にして、選択・確定することができる。従って、アドレスのドメイン名を一字一文字入力しなくても済み、アドレスの入力ミスが大幅に減少する。

【0041】請求項2の発明のインターネットファクシミリ装置では、アドレスのドメイン名の一部の文字を入力すれば、残りの文字を補完したドメイン名の候補が提示され、その中から所望のドメイン名を選択・確定できるので、アドレスの入力ミスが減少する。

【0042】請求項3の発明のインターネットファクシミリ装置では、アドレスのドメインに関連する属性を選択していけば、所望のドメイン名に到達・確定できるので、アドレスの入力ミスが減少する。

【0043】請求項4の発明のインターネットファクシミリ装置では、よく利用する送信先アドレスやその一部を登録しておくことができるので、送信時において直ぐに所望のアドレス等と呼び出すことができ、極めて便利

である。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態に係るインターネットファクシミリ装置の概略構成を示すブロック図である。

【図2】上記装置と、それに接続されている通信網とを、概略的に示したブロック図である。

【図3】上記装置を利用した送信処理の一例を示すフローチャートである。

【図4】上記装置を利用した送信処理の他の例を示すフローチャートの一部である。

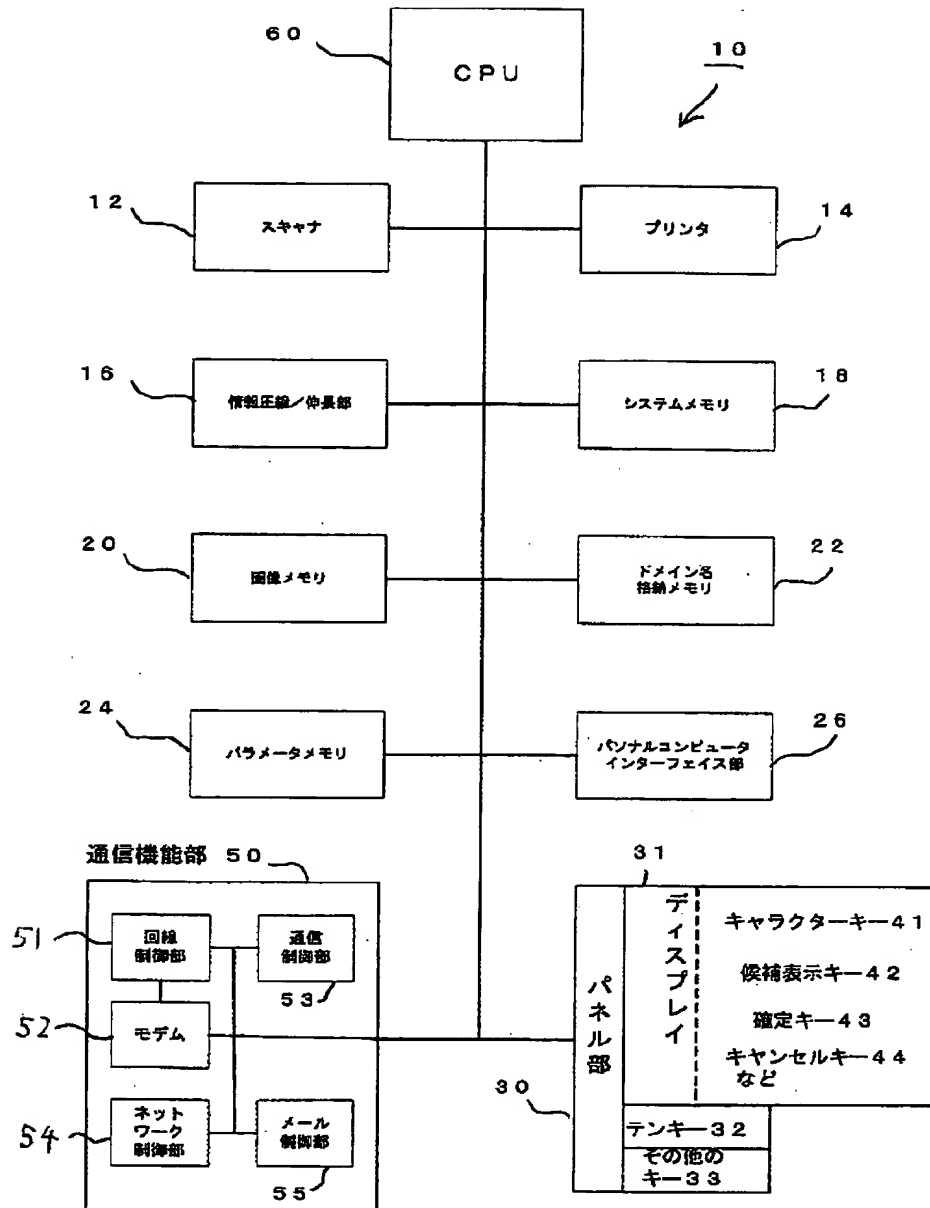
【図5】図4に示した送信処理における国内ドメイン向け処理ステップのより詳しいフローチャートである。

【図6】図5に示した国内ドメイン向け処理における営利団体向け処理ステップのより詳しいフローチャートである。

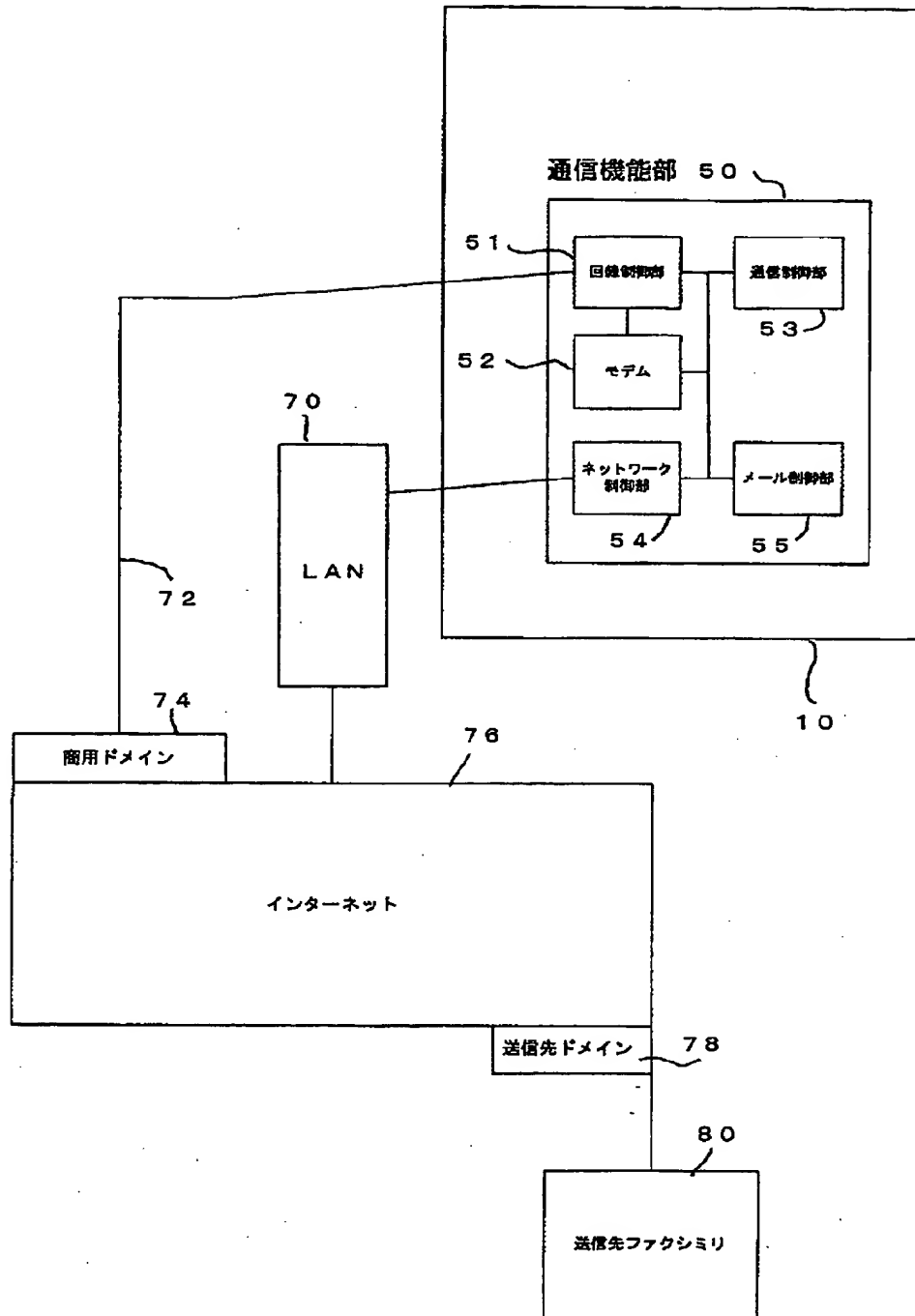
#### 【符号の説明】

10 インターネットファクシミリ装置、12 スキャナ、14 プリンタ、16 情報圧縮／伸長部、18 システムメモリ、20 画像メモリ、22 ドメイン名格納メモリ、24 パラメータメモリ、26 パーソナルコンピュータインターフェイス部、30 パネル部、31 ディスプレイ、50 通信機能部、51 回線制御部、52 モデム、53 通信制御部、54 ネットワーク制御部、55 メール制御部、60 CPU、70 LAN、72 公衆回線、74 商用ドメイン、76 インターネット、78 通信先ドメイン、80 送信先ファクシミリ

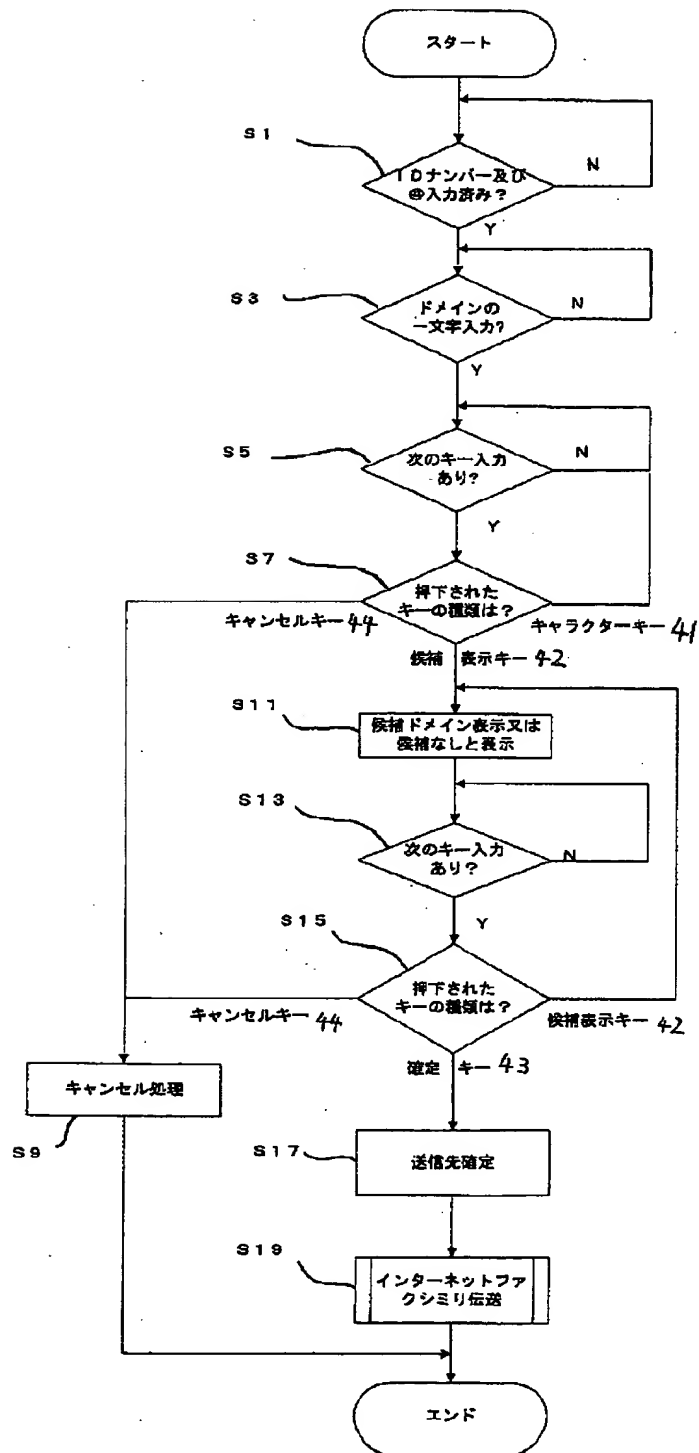
【図1】



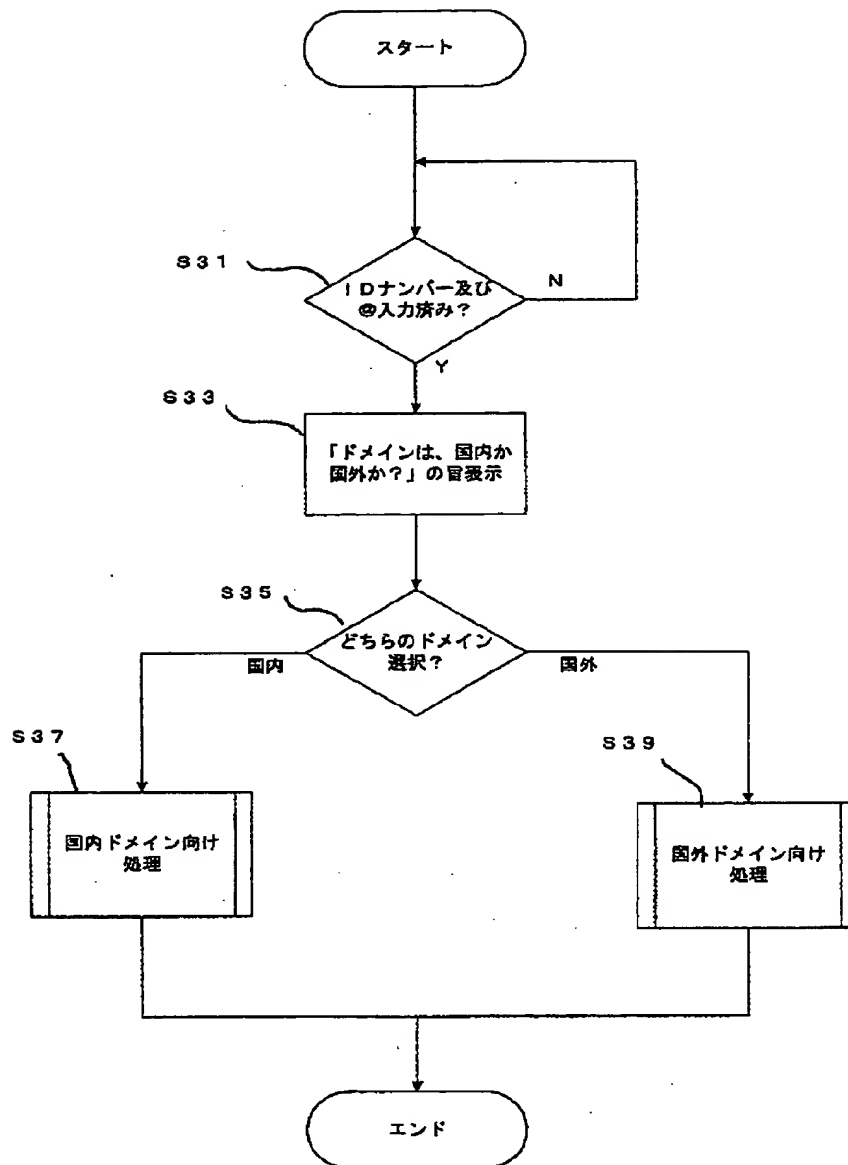
【図2】



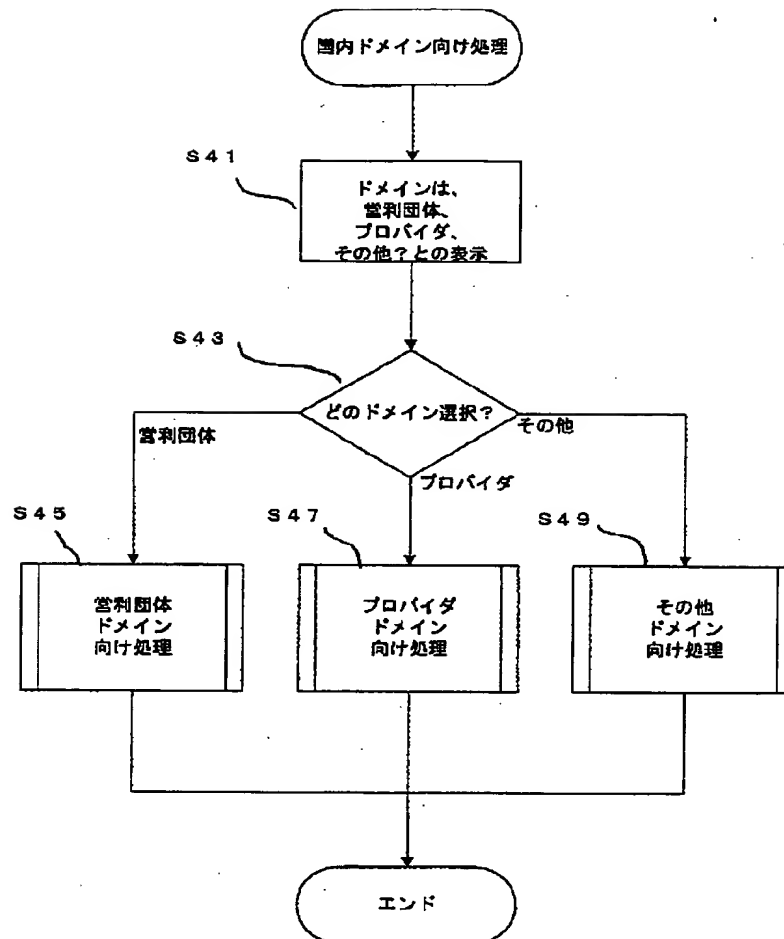
【図3】



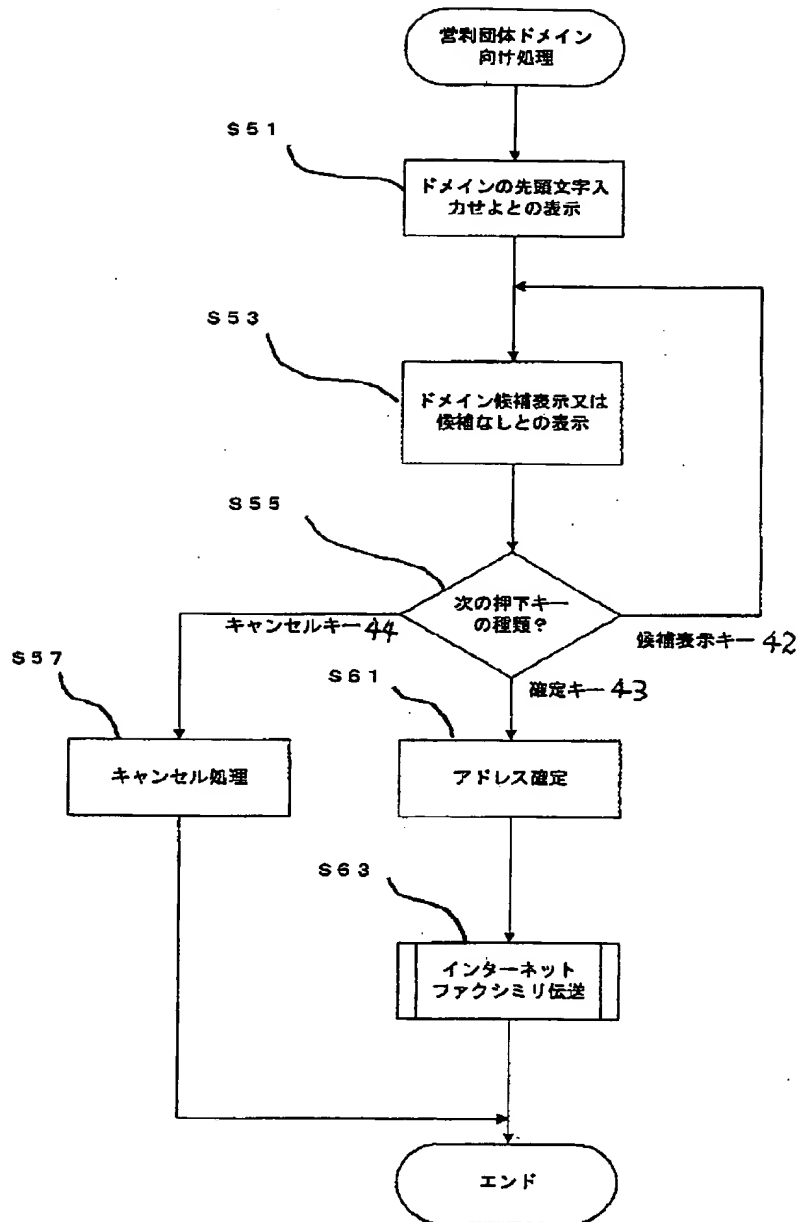
【図4】



【図5】



【図6】



## 【手続補正書】

【提出日】平成11年4月9日

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項1】 インターネットを介して送信先にファク

シミリ伝送を実施可能なインターネットファクシミリ装置であって、送信先のアドレスのユーザ識別情報を入力可能な識別情報入力手段と、該識別情報入力手段によってユーザ識別情報を入力した後に、該ユーザ識別情報とドメイン名を区切る@を入力する@入力手段と、該@入力手段による@の入力に続いて、送信先のアドレスのドメイン名の候補を絞るために、特定の情報を入力又は選

択する特定情報入力／選択手段と、ドメイン名が多数記憶してあるドメイン記憶手段と、前記識別情報入力手段及び前記@入力手段による入力が行われたか否かを判断する判断手段と、該判断手段により前記識別情報入力手段及び前記@入力手段による入力が行われたと判断された後に、前記特定情報入力／選択手段によって入力又は選択された前記特定の情報と、前記ドメイン記憶手段に記憶されているドメイン名とを関連させて、送信先のアドレスのドメイン名の候補を挙げる候補提示手段と、前記候補提示手段によって候補が1つのみ提示された場合には、その候補に確定し、また候補が2以上提示された場合には、その中から1つの候補を選択し且つその選択された候補に確定する提示候補確定手段と、前記識別情報入力手段と前記提示候補確定手段とによって確定されたアドレスに従って、インターネット送信の実行を指令する送信指令手段とを備えることを特徴とするインターネットファクシミリ装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項3】 前記ドメイン記憶手段には、ドメイン名が、例えば国内又は国外のインターネットサーバを意味する様な属性情報と共に多数記憶しており、前記特定情報入力／選択手段は、前記ドメイン名の1以上の属性を選択するものであり、前記候補提示手段は、前記属性に適合する候補を提示するものであることを特徴とする請求項1記載のインターネットファクシミリ装置。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正内容】

【0002】

【従来の技術】インターネットによる電子メール伝送の場合には、送信された情報と同一情報が、送信元のパーソナルコンピュータ等のメモリに通常残される。一方、インターネットファクシミリ装置では、送信すべき情報が画像情報であり、一般に情報量が多いため、その情報がインターネット上の中継ドメイン（商用プロバイダ等）に一旦送られれば、実際にその情報が送信先に届くか否かに関係なく、通常、当該情報はインターネットファクシミリ装置には記憶・保存されていない。従って、インターネットファクシミリ装置では、間違った送信先を指定して送信操作を実行してしまった場合、その後、正規の送信先へのインターネットファクシミリ伝送を完遂させるためには、再び、スキャナでの読み取り操作を含む送信操作を実施する必要がある、インターネットによる電子メール伝送に比べて再送信操作が非常に煩雑で

あった。従って、特に、インターネットファクシミリ装置では、アドレスの入力間違いを防ぐことが望まれる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため、請求項1記載の発明は、インターネットを介して送信先にファクシミリ伝送を実施可能なインターネットファクシミリ装置であって、送信先のアドレスのユーザ識別情報を入力可能な識別情報入力手段と、該識別情報入力手段によってユーザ識別情報を入力した後に、該ユーザ識別情報とドメイン名を区切る@を入力する@入力手段と、該@入力手段による@の入力に続いて、送信先のアドレスのドメイン名の候補を絞るために、特定の情報を入力又は選択する特定情報入力／選択手段と、ドメイン名が多数記憶してあるドメイン記憶手段と、前記識別情報入力手段及び前記@入力手段による入力が行われたか否かを判断する判断手段と、該判断手段により前記識別情報入力手段及び前記@入力手段による入力が行われたと判断された後に、前記特定情報入力／選択手段によって入力又は選択された前記特定の情報と、前記ドメイン記憶手段に記憶されているドメイン名とを関連させて、送信先のアドレスのドメイン名の候補を挙げる候補提示手段と、前記候補提示手段によって候補が1つのみ提示された場合には、その候補に確定し、また候補が2以上提示された場合には、その中から1つの候補を選択し且つその選択された候補に確定する提示候補確定手段と、前記識別情報入力手段と前記提示候補確定手段とによって確定されたアドレスに従って、インターネット送信の実行を指令する送信指令手段とを備えるものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】具体的には、まず、識別情報入力手段により、送信先のアドレスのユーザ識別情報を入力する。続いて、@入力手段により、ユーザ識別情報とドメイン名を区切る@を入力する。そして、送信先のアドレスのドメイン名の候補を絞るために、そのドメインに関連する特定情報を、特定情報入力／選択手段で入力又は選択する。それによって、ドメイン名が多数記憶してあるドメイン記憶手段から、その特定情報と関連性の強いドメイン名の候補が候補提示手段によって挙げられる。その候補から、所望の候補を提示候補確定手段によって確定し、その確定されたドメイン名と、識別情報入力手段に



よって、例えば文字や数字が入力されたユーザ識別情報とからなるアドレスに向けて、送信指令手段により、インターネット送信の実行が指令される。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】請求項3記載の発明のインターネットファクシミリ装置では、前記ドメイン記憶手段には、ドメイン名が、例えば国内又は国外のインターネットサーバを意味する様な属性情報と共に多数記憶しており、前記特定情報入力／選択手段は、前記ドメイン名の1以上の属性を選択するものであり、前記候補提示手段は、前記属性に適合する候補を提示するものであることを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正内容】

【0011】この装置では、上記特定情報としてのドメインの属性、具体的には、国内ドメインか国外ドメインかのような属性を選択することによって、ドメインの候

補を絞って行くことができ、その候補の中から、送信先アドレスのドメイン名を選択・確定することができる。即ち、請求項3の装置では、特定情報として属性を選択することによって、ドメインの候補を順次絞って行くことができ、その候補の中から、送信先アドレスのドメイン名を選択・確定することができる様に構成されている。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正内容】

【0029】別の実施の形態を図4～図6のフローチャートを参照して説明する。CPU60は、テンキー32やキャラクター41によって、送信先のIDナンバー、更にその直後に続くアット・マークが入力されたか判断する（図4に示すS31）。上記IDナンバー等が未だ入力されていない場合には、それらが入力されるまで待機する（S31：NO）。IDナンバーとアットマークとが入力された場合には（S31：YES）、その後、ディスプレイ31に、「ドメインが国内ならば国内という表示を、外国ならば国外という表示を押下する」という表示と共に、「国内」及び「国外」という表示をさせる（S33）。